

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-179	12-040	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Binge drinking intensity: a comparison of two measures. 多量飲酒の強さ : 2つの測定方法の比較		
<b>執筆者</b>		
Esser MB, Kanny D, Brewer RD, Naimi TS.		
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>		
Am J Prev Med. 2012;42:625-9.		
<b>キーワード</b>		
飲酒、強度、有病率、測定方法		
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的:</b></p> <p>多量飲酒 (1 機会において、女性では 4 杯以上、男性では 5 杯以上の飲酒) は、年間 80,000 人のアメリカ人の死亡のうち半数と関連があり、また 2006 年の医療費の 2,235 億ドルのうちの 4 分の 3 との関連があるとされる。多量飲酒の有病率は、その強さよりも多くの機会 で評価されている。多量飲酒に関連した害のリスクはその強度に伴い増加し、よって監視 が重要である。健康調査では飲酒について多く評価されてきたが、しかし多量飲酒の強度 の評価についてその有用性は十分に知られていない。</p> <p><b>方法:</b></p> <p>本研究の目的は多量飲酒の 2 つの潜在的な評価法に対する一致性を評価することである : 最近の多量飲酒における 1 回あたりの最大飲酒量と飲酒回数について。2008 年の Behavioral Risk Factor Surveillance System (BRFSS) 多量飲酒モジュールに対応した 14 州から 7,909 人の多量飲酒成人を分析対象とした。1 回の多量飲酒あたりの飲酒回数の平均 および中央値と最大飲酒量の平均および中央値を比較検討した。分析は 2010 年から 2011 年に行った。</p> <p><b>結果:</b></p> <p>平均 8.2 および中央値 5.9 の最大飲酒量は、1 回の多量飲酒における飲酒回数の平均 7.4 および中央値 5.4 と強い相関を認めた (<math>r=0.57</math>)。これらの測定方法は全ての州について大 部分の社会人口統計的および飲酒カテゴリーにおいて強い相関を認めた。</p> <p><b>結論:</b></p> <p>多量飲酒での最大飲酒量は多量飲酒強度を評価するための臨床的な方法であり、よって多 量飲酒を予防するための Community Guide-recommended strategies を計画評価する (例 えばアルコール飲料の値上げやアルコールアウトレットの密度、等) ために用いることができ よう。</p>		